

パプリカの栽培技術の確立

第4報 栽培初期の着果数の制限が生育・収量に及ぼす影響

深田直彦・黒木利美・藤田和也 (宮崎県総合農業試験場)

Naohiko Fukada, Toshimi Kurogi and Kazuya Fujita :
Establishment of cultivation technique on paprika

4. Effect of the restriction of fructification number in the cultivation initial stage on growth and yield

前報までに促成パプリカ栽培における栽植密度および側枝の着果数制御, 着果開始節位が生育・収量に及ぼす影響について報告した。本報では栽培初期の着果数の制限について述べる。

1. 材料および方法

供試品種は“スピリット”を用いた。試験区は, 第2分枝節から第5分枝節までの着果数を変えることで設けた。すなわち, 当該部位の着果数を2果にする2果制限区, 同様に3果にする3果制限区, 着果を制限しない無処理区を設けた。いずれの区も第1分枝節の果実はすべて摘除した。試験は培養液を循環させる固形培地耕で行った。培地には1年程露地で堆積後, 粉碎して12mm以下の長さにした杉皮を用いた。培養液の処方は大塚B処方とした。培養液の濃度は, 育苗期はEC1.0~2.3, 定植後はEC1.2~2.7で管理した。培養液の循環は10月8日から実施した。給液量は株当たり日量を1~6lとし, これを1日に4~12回に分けて給液した。播種は2002年8月16日に行い, 10cm×10cm×7.5cmのロックウールキューブに鉢上げして9月20日に定植した。畦幅は135cm, 株間は30cmとし, 主枝2本仕立てで栽培した。主枝は誘引線の上端部に到達するまでほぼ垂直に誘引を行い, その後主枝を摘心した2003年5月23日までは主枝を畦方向に振り分けて斜めに誘引した。側枝は3, 4節で摘心し, 着果のない側枝は1節で切り返した。最低気温は17℃設定で, 培地温は最低20℃で管理した。収穫は2002年11月22日から2003年7月7日まで行った。

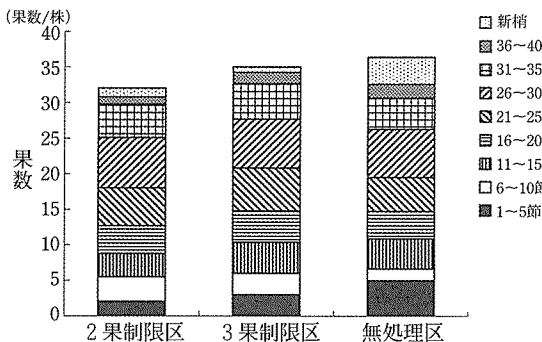
第1表 主枝の状態

区名	定植40日後				定植70日後				栽培終了時				
	主枝長 (cm)	節数	茎径* (mm)	開花節長† (cm)	主枝長 (cm)	節数	茎径* (mm)	主枝長 (cm)	節数	茎径* (mm)	主枝長 (cm)	節数	茎径* (mm)
2果制限区	62±2a	10	7.6a	4.7	93±8a	15	8.3a	221±15ab	37	10.6a			
3果制限区	61±2a	10	7.8a	4.5	94±6a	15	8.0ab	230±18a	38	10.4ab			
無処理区	56±8b	10	6.7b	2.7	81±13b	14	6.9b	214±23b	38	9.8b			

注) 平均値±標準偏差。アルファベットの異なる文字間には Bonferroni の多重比較により5%未満で有意差がある。

z: 主枝の5~6節位間。

y: 主枝の先端部から開花節位までの長さ。



第1図 節位間別の着果数

2. 結果および考察

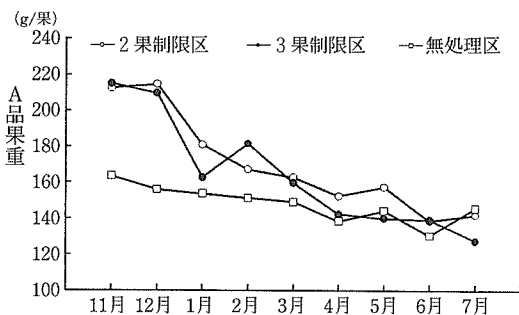
生育: 無処理区の第5分枝節までの着果数は株当たり平均5果であった。無処理区は定植後40日目には着果負担の影響がみられ, 主枝長や主枝の先端から開花節までの長さが短く, 茎が細くなる傾向があった。また無処理区は他の区に比べて生育の揃いが悪かった (第1表, 第1図)。

収量: 収穫果数は2果制限区が最も少なく無処理区が最も多かった。一方, 一果重は逆の動きを示し, 無処理区が最も小さく2果制限区が最も大きかった。この処理による一果重の差は初期ほど顕著であった。収量は3果制限区が着果数の減少を一果重の増加で補う形を示し, 可販果収量, A品収量とも最も優れた (第2表, 第2図)。時期別収量 (A品) を旬別にみると, 収穫始めの11月は無処理区が多かったが, それ以外の収量の山・谷を示す時期はいずれの区もほぼ同様であった (第3図)。

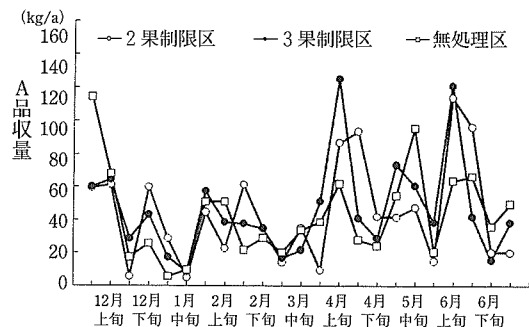
以上のことから, 促成パプリカにおける栽培初期の着果数は第5分枝節までに3果に制限するのがよいと考えられた。

第2表 収量

区名	総収量		可販果収量		A品収量		A品率 (%)	一果重 (g)
	果数 (個/a)	重量 (kg/a)	果数 (個/a)	重量 (kg/a)	果数 (個/a)	重量 (kg/a)		
2果制限区	7,900	1,181	7,310	1,132	6,290	1,018	86.2	162
3果制限区	8,620	1,247	8,100	1,205	6,790	1,063	85.2	157
無処理区	8,980	1,226	8,200	1,164	6,740	984	80.2	146



第2図 時期別の平均一果重の推移



第3図 時期別収量 (A品) の推移